

博物館の収蔵課題の解消に向けた取組への支援

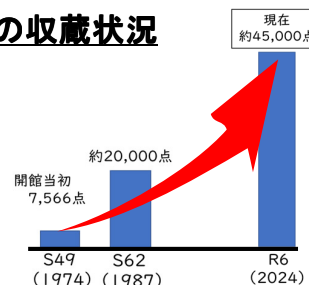
【担当省庁】文化庁

奈良県における取組

奈良県立民俗博物館(昭和49年11月設立)の収蔵状況



収蔵箇所	面積	点数
本館収蔵庫	720㎡	24,000点
敷地内プレハブ	333㎡	6,000点
旧郡山土木事務所	594㎡	12,000点
旧高田東高校	2,028㎡	3,000点
合 計	3,675㎡	約45,000点

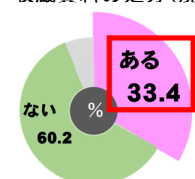
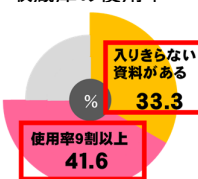


◆本館収蔵庫に収まりきれない資料は、プレハブや旧高校校舎などを活用して保管。本館内外の保管場所の老朽化に伴う資料保存環境の劣悪化。

【参考】全国の博物館の状況 (参照) 博物館収蔵資料の保管と活用に向けた調査研究(調査期間: R5年2月～3月)
(研究代表者: 法政大学金山教授)

収蔵庫の使用率

収蔵資料の処分(廃棄、移管、売却等)の有無



記述回答要約(抜粋)

「収蔵環境が限界に近づいたため主に民具系の資料が大量に廃棄されたことがある」

「民俗資料のうち大量に重複している資料破損した資料について廃棄したことがある」

「博物館の収蔵スペース不足」という全国が先送りにしてきた共通の課題に、奈良県が全国に先駆けて果敢に取り組み、**「民俗資料の収集・保存」の奈良モデル**を実行する。

「民俗資料の収集・保存」の奈良モデルの内容

1. 民俗資料のDX推進
2. 専門家の協力を得て収集・保存ルールを策定
3. 大学・博物館等やボランティアの協力を得て資料整理を促進
4. 多様な主体による資料保存・活用

1. 民俗文化財の調査に対する国庫補助金の予算確保

◆民俗資料の調査・整理を図り、資料情報を正確に把握することにより、有形民俗文化財の指定を目指すとともに、デジタルアーカイブ化を促進。

課題

大量の資料の調査、研究、及び**デジタルアーカイブ化の促進**には学芸員以外にも補助員などが必要であり、**相当の人件費等**が発生

2. 収蔵庫改修等による調査場所の確保及び収蔵能力向上

◆収蔵展示など新たな収蔵方法を導入し、収蔵容量を増大

◆常時の民俗資料の調査・整理場所を確保

課題

国指定重要文化財に限らず収蔵する資料を適切に保管し、展示・活用する必要がある。

民俗文化財を効率的に調査・整理する場所が確保出来きていない。

国にお願いすること

- 1 民俗文化財の調査に対する国庫補助金の予算確保
様々な調査・整理の取り組みについて採択いただけるよう、予算を確保いただきたい。
- 2 収蔵課題解消のための整備の支援
民俗文化財の調査に対する国庫補助制度の拡充
(民俗文化財の調査場所確保のための施設増改築等に必要な工事請負費を補助対象に追加)

【県担当部局】 地域創造部 文化財課